

2015 年度（平成 27 年度）の温室効果ガス排出量（速報値）〈概要〉

- 2015 年度の我が国の温室効果ガスの総排出量は、13 億 2,100 万トン（二酸化炭素（CO₂）換算。以下同じ。）。
 - 前年度の総排出量（13 億 6,200 万トン）と比べて、3.0%（4,100 万トン）の減少。
 - 2013 年度の総排出量（14 億 500 万トン）と比べて、6.0%（8,400 万トン）の減少。
 - 2005 年度の総排出量（13 億 9,300 万トン）と比べて、5.2%（7,200 万トン）の減少。

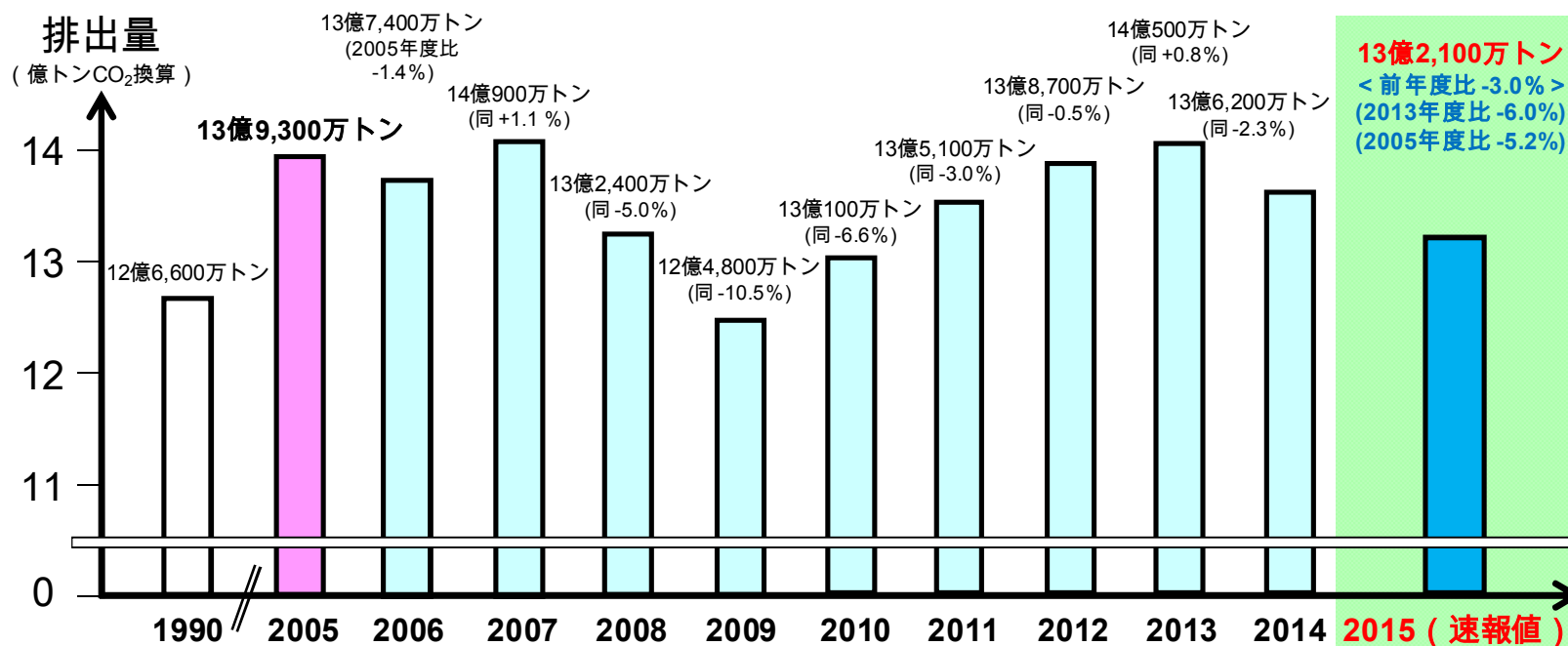
（参考）

- 前年度／2013 年度と比べて排出量が減少した要因としては、電力消費量の減少や電力の排出原単位の改善に伴う電力由来の CO₂ 排出量の減少により、エネルギー起源の CO₂ 排出量が減少したことなどが挙げられる。
- 2005 年度と比べて排出量が減少した要因としては、オゾン層破壊物質からの代替に伴い、冷媒分野においてハイドロフルオロカーボン類（HFCs）の排出量が増加した一方で、産業部門や運輸部門におけるエネルギー起源の CO₂ 排出量が減少したことなどが挙げられる。

※ 2015 年度速報値の算定に用いた各種統計等の年報値について、速報値の算定時点で 2015 年度の値が未公表のものは 2014 年度の値を代用している。また、一部の算定方法については、より正確に排出量を算定できるよう見直しを行っている。このため、今回とりまとめた 2015 年度速報値と、来年 4 月に公表予定の 2015 年度確報値との間で差異が生じる可能性がある。なお、確報値では、森林等による吸収量についても算定、公表する予定である。

我が国の温室効果ガス排出量（2015年度速報値）

- 2015年度（速報値）の総排出量は13億2,100万トン（前年度比-3.0%、2013年度比-6.0%、2005年度比-5.2%）
- 前年度／2013年度と比べて排出量が減少した要因としては、電力消費量の減少や電力の排出原単位の改善に伴う電力由来のCO₂排出量の減少により、エネルギー起源のCO₂排出量が減少したことが挙げられる。
- 2005年度と比べて排出量が減少した要因としては、オゾン層破壊物質からの代替に伴い、冷媒分野においてハイドロフルオロカーボン類（HFCs）の排出量が増加した一方で、産業部門や運輸部門におけるエネルギー起源のCO₂排出量が減少したことが挙げられる。



注1 2015年度速報値の算定に用いた各種統計等の年報値について、速報値の算定時点で2015年度の値が未公表のものは2014年度の値を代用している。また、一部の算定方法については、より正確に排出量を算定できるよう見直しを行っている。このため、今回とりまとめた2015年度速報値と、来年4月に公表予定の2015年度確報値との間で差異が生じる可能性がある。なお、確報値では、森林等による吸収量についても算定、公表する予定である。

注2 各年度の排出量及び過年度からの増減割合（「2005年度比」等）には、京都議定書に基づく吸収源活動による吸収量は加味していない。

図1 我が国の温室効果ガス排出量（2015年度速報値）

表1 各温室効果ガスの排出量（2005年度、2013年度及び前年度との比較）

	1990年度 排出量 〔シェア〕	2005年度 排出量 〔シェア〕	2013年度 排出量 〔シェア〕	2014年度 排出量 〔シェア〕	2015年度(速報値)			
					排出量 〔シェア〕	変化率		
						2005年度比	2013年度比	2014年度比
合計	1,266 〔100%〕	1,393 〔100%〕	1,405 〔100%〕	1,362 〔100%〕	1,321 〔100%〕	-5.2%	-6.0%	-3.0%
二酸化炭素(CO ₂)	1,156 〔91.3%〕	1,306 〔93.7%〕	1,312 〔93.4%〕	1,266 〔93.0%〕	1,223 〔92.6%〕	-6.3%	-6.7%	-3.4%
エネルギー起源	1,067 〔84.3%〕	1,219 〔87.5%〕	1,235 〔87.9%〕	1,190 〔87.4%〕	1,148 〔86.9%〕	-5.8%	-7.0%	-3.5%
非エネルギー起源	89.2 〔7.0%〕	86.9 〔6.2%〕	76.6 〔5.5%〕	76.1 〔5.6%〕	75.0 〔5.7%〕	-13.7%	-2.1%	-1.5%
メタン(CH ₄)	44.1 〔3.5%〕	35.1 〔2.5%〕	32.6 〔2.3%〕	31.9 〔2.3%〕	31.2 〔2.4%〕	-11.2%	-4.3%	-2.4%
一酸化二窒素(N ₂ O)	30.8 〔2.4%〕	24.5 〔1.8%〕	21.5 〔1.5%〕	21.1 〔1.5%〕	20.9 〔1.6%〕	-14.7%	-2.9%	-0.9%
代替フロン等4ガス	35.4 〔2.8%〕	27.7 〔2.0%〕	38.8 〔2.8%〕	42.0 〔3.1%〕	45.4 〔3.4%〕	+64.0%	+17.0%	+8.1%
ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)	15.9 〔1.3%〕	12.8 〔0.9%〕	32.1 〔2.3%〕	35.8 〔2.6%〕	39.4 〔3.0%〕	+208.5%	+22.9%	+10.2%
パーフルオロカーボン類(PFCs)	6.5 〔0.5%〕	8.6 〔0.6%〕	3.3 〔0.2%〕	3.4 〔0.2%〕	3.3 〔0.3%〕	-61.6%	+0.9%	-1.6%
六ふっ化硫黄(SF ₆)	12.9 〔1.0%〕	5.1 〔0.4%〕	2.1 〔0.1%〕	2.1 〔0.2%〕	2.1 〔0.2%〕	-58.0%	+1.0%	+2.7%
三ふっ化窒素(NF ₃)	0.03 〔0.003%〕	1.2 〔0.1%〕	1.4 〔0.1%〕	0.8 〔0.1%〕	0.6 〔0.04%〕	-54.3%	-58.0%	-31.3%

(単位:百万トンCO₂換算)

表2 各部門のエネルギー起源二酸化炭素(CO₂)排出量(電気・熱配分後)

	1990年度 排出量 〔シェア〕	2005年度 排出量 〔シェア〕	2013年度 排出量 〔シェア〕	2014年度 排出量 〔シェア〕	2015年度(速報値)			
					排出量 〔シェア〕	変化率		
						2005年度比	2013年度比	2014年度比
合計	1,067 〔100%〕	1,219 〔100%〕	1,235 〔100%〕	1,190 〔100%〕	1,148 〔100%〕	-5.8%	-7.0%	-3.5%
産業部門 (工場等)	502 〔47.0%〕	457 〔37.5%〕	432 〔35.0%〕	421 〔35.4%〕	413 〔35.9%〕	-9.7%	-4.4%	-2.1%
運輸部門 (自動車等)	206 〔19.3%〕	240 〔19.7%〕	225 〔18.2%〕	220 〔18.5%〕	216 〔18.8%〕	-9.7%	-3.7%	-1.8%
業務その他部門 (商業・サービス・事業所等)	137 〔12.8%〕	239 〔19.6%〕	278 〔22.5%〕	264 〔22.2%〕	249 〔21.7%〕	+4.3%	-10.5%	-5.7%
家庭部門	131 〔12.2%〕	180 〔14.8%〕	201 〔16.3%〕	191 〔16.1%〕	182 〔15.8%〕	+1.1%	-9.7%	-4.8%
エネルギー転換部門 (発電所等)	91.1 〔8.5%〕	104 〔8.5%〕	98.9 〔8.0%〕	93.3 〔7.8%〕	88.2 〔7.7%〕	-14.9%	-10.8%	-5.4%

(単位:百万トンCO₂)

【前年度からのエネルギー起源二酸化炭素（CO₂）の排出量の主な増減の内訳】

- 産業部門（工場等）：860 万トン（2.1%）減
 - ・ 製造業（鉄鋼・非鉄・金属製品製造業）における排出量が減少。
- 運輸部門（自動車等）：390 万トン（1.8%）減
 - ・ 貨物輸送と旅客輸送における排出量が減少。
- 業務その他部門（商業・サービス・事業所等）：1,500 万トン（5.7%）減
 - ・ 電力消費に伴う排出量が減少。
- 家庭部門：920 万トン（4.8%）減
 - ・ 電力消費に伴う排出量が減少。
- エネルギー転換部門（発電所等）：510 万トン（5.4%）減
 - ・ 事業用発電、石炭製品製造における排出量が減少。

【前年度からのエネルギー起源二酸化炭素（CO₂）以外の排出量の主な増減の内訳（CO₂換算）】

- 非エネルギー起源二酸化炭素（CO₂）：120 万トン（1.5%）減
 - ・ 工業プロセス及び製品の使用分野（セメント製造等）において排出量が減少。
- メタン（CH₄）：80 万トン（2.4%）減
 - ・ 農業分野（稲作等）において排出量が減少。
- 一酸化二窒素（N₂O）：20 万トン（0.9%）減
 - ・ 工業プロセス及び製品の使用分野、燃料の燃焼・漏出における排出量が減少。
- ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）：360 万トン（10.2%）増
 - ・ 冷媒分野において排出量が増加。
- パーフルオロカーボン類（PFCs）：5 万トン（1.6%）減
 - ・ 半導体・液晶製造分野において排出量が減少。
- 六ふっ化硫黄（SF₆）：6 万トン（2.7%）増
 - ・ 金属生産における排出量が増加。
- 三ふっ化窒素（NF₃）：30 万トン（31.3%）減
 - ・ NF₃製造時の漏出分野において排出量が減少。